

官民共同で「新しい東北」の挑戦を伝えるPR事業
7月18日より本格始動
(「新しい東北」官民共同PR事業)

- 復興をきっかけに地域の課題を解決し、単なる原状復帰にとどまらない東北の挑戦的な取組を発信する、「新しい東北」官民共同PR事業が本格始動します。
- 7月18日に開催される「ニコニコ町会議 in 岩手県平泉町」と「新しい東北」とのタイアップを皮切りに、我が国や全国モデルとなる東北の先導的な取組を全国に発信する企画を、民間との共同で順次開催します。
- 復興の取組をよく知ってもらい、復興への関心を高めることで、「助ける」だけではない、被災地とともに成長していく民間のパートナーを拡大していきます。

(詳細については別紙をご参照ください。)

(1) ニコニコ町会議 in 岩手県平泉町

7月18日：岩手県平泉町で開催される地域情報発信型の移動式文化祭「ニコニコ町会議」に復興に取り組む13団体が出展します。

(2) Creative Summer Camp 2015 in TOHOKU

8月下旬～9月上旬：86名の参加者が宮城県石巻、福島県会津、山形県赤湯の3コースに別れ、現地での撮影・編集・発表に挑みます。

9月29日：東京・渋谷で優秀作品を決定する最終発表会を開催します。

(3) 世界にも通用する究極のお土産―「新しい東北」の挑戦―

9月14日：一次審査を経て厳選された100商品から、究極のお土産10商品を選定する最終審査会を開催します。

(4) “新しい東北キッチン”プロジェクト

8月(予定)：料理レシピサイト「クックパッド」内に「新しい東北」公式キッチン(仮)を開設します。

10月～(予定)：「クックパッド料理教室×東北食材」を開講し、生活者と生産者のリアルな接点を創出していくことも予定しています。

新しい東北

問い合わせ先：復興庁 総合政策班

電話：03-5545-7463

03-5545-7230

参事官補佐 堂井

参事官補佐 地主

【別 紙】

官民共同で「新しい東北」の挑戦を伝えるPR事業が本格始動 (平成 27 年 7 月 18 日より)

復興庁では、株式会社ドワンゴ、一般社団法人 myJapan から複数の民間事業者と共に、官民共同で「新しい東北」の挑戦を伝えるPR事業を、平成 27 年 7 月 18 日より本格的に開始いたします。

東北地方では、人口減少・高齢化・産業の空洞化など、今の日本が抱える課題が顕著であり、このため被災地を従前の状態に復旧するのではなく、復興を契機にこれらの課題を解決する新たな挑戦が求められています。復興庁では、我が国や世界のモデルとなる「創造と可能性の地」として、「新しい東北」の創造にチャレンジする活動や事業者を積極的に支援しており、本事業もその一環として行うものです。

「新しい東北」官民共同PR事業では、復興をきっかけに地域の課題解決に取り組む東北の姿を、民間企業・団体と共同で全国に伝えるアイデアを公募・決定しており、7 月 18 日の「ニコニコ町会議 in 岩手県平泉町」を皮切りに以下のPR事業を本格的に推進してまいります。

① 「ニコニコ町会議 in 岩手県 平泉町」コラボレーション (平成 27 年 7 月 18 日開催)

株式会社ドワンゴと共同で行われる本 PR 事業は、東北で開催される地域情報発信型の移動式文化祭「ニコニコ町会議」とのタイアップにより、東北各地で活動している事業者が町会議への出展・生放送などを通じた交流を行い、若年層を中心に「新しい東北」の姿を発信します。

② 「Creative Summer Camp 2015 in TOHOKU」 (平成 27 年 8 月 21 日～9 月 29 日開催)

一般社団法人 myJapan と共同で行われる本 PR 事業は、29 歳以下の若手クリエイターが「地域の魅力を PR」する 30 秒動画を作る合宿型映像制作プログラムです。今年は福島県会津、宮城県石巻、山形県赤湯の東北 3 地域で、地域の奮闘を切り取り「東北の今」を発信することを目指します。

③ 「世界にも通用する究極のお土産―「新しい東北」の挑戦―」 (平成 27 年 6 月～9 月開催)

大手百貨店、コンビニ、ネットモールなど複数の流通企業と共同で行われる本 PR 事業は、震災の被害によって市場と販路の多くを失った事業者と、大手流通バイヤーを結びつける取組みです。「世界にも通用する(東北発)食みやげ」をテーマに、究極の 10 品を選ぶ品評会やシンポジウムを開催いたします。

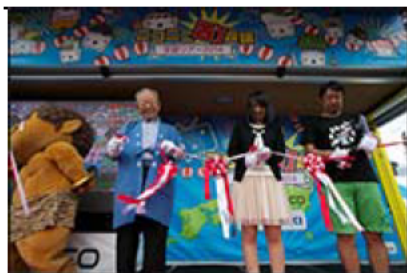
④ 「“新しい東北キッチン”プロジェクト」(平成 27 年 8 月～10 月開催)

「食の宝庫」と言われる東北において、野菜を中心とした稀少価値の高い食材を食す機会やヒントを提供する取組みです。料理レシピサイト「クックパッド」での公式キッチンページの開設や「クックパッド料理教室」での開講といった食を通じた触れ合いから、「進化している東北」が身近な存在となることを目指します。

各共同事業の詳しい概要につきましては、次頁以降をご参照ください。またそれぞれのPR事業で企画の内容をさらに充実させる場合、新たに事業が追加された場合などには、改めてご報告申し上げます。

【別 紙】

事業紹介①「ニコニコ町会議 in 岩手県 平泉町」コラボレーション



昨年開催した「ニコニコ町会議全国ツアー 2014」の様子

平成 27 年 7 月 18 日に開催する「ニコニコ町会議 in 岩手県 平泉町」は、全国 10 カ所で開かれる「ニコニコ町会議 全国ツアー2015」のオープニングでもあり、本年の町会議唯一の東北開催となります(平成 27 年 7 月 14 日時点)。ニコニコ町会議は、ニコニコ発の超巨大イベント「ニコニコ超会議」の「町」版として、昨年は全国 12 カ所を巡り、会場来場者数 20 万 500 人、ネット来場者数 257 万 8,546 人を記録しました。ニコニコの様々なジャンルで活躍するユーザーと地域の皆様との交流をはじめ、地方ならではの文化や特産品の紹介などを発信していきます。今回はニコニコ町会議と「新しい東北」官民共同PR事業のコラボレーションにより、東北で新しい挑戦に取り組む各事業者を紹介する試みで、東北各地の魅力や特色を全国に向けて紹介する他、さまざまなニコニコ連携コンテンツなども予定されています。もちろんインターネットを使った生放送も行います。

● 「ニコニコ町会議 in 岩手県 平泉町」に参画する、「新しい東北」チャレンジ事業者

NO	出展名	所在地	形態	概要
1	かぎっこ PROJECT	宮城県 石巻市	フラッグシップ店	高校生がつくる石巻カフェ「」を運営する「かぎっこ PROJECT」が核店舗として出店。町会議内唯一の、休憩が出来る東北満喫型カフェのスペースに。
2	まるごと陸前高田協議会	岩手県 陸前高田市	観光 PR	「様々な意見が対立するリアルなまちづくりの場」として、復興工事現場内部の見学ははじめ来場者へ「おもしろい」コンテンツを紹介。
3	(株)IE	福島県 会津坂下町	物販	会津木綿を使ったストールの展示販売。を行います。また「会津木綿でつくる東北の旗」づくりワークショップも開催。
4	岩手県久慈市	岩手県 久慈市	中継	久慈市内で同日開催のキャラクターでワインワークショップと連動。両会場を中継で結び、制作・誕生したキャラクターを町会議来場者が採点。
5	たかた Ingress 研究会	岩手県 陸前高田市	物販 体験	位置情報スマホアプリ Ingress を用いた来場者体験企画「Third Saturday」を開催。その他、缶バッジ・キーホルダーなどの販売も。
6	(株)幸呼来 Japan	岩手県 盛岡市	物販	盛岡の夏の祭典「さんさ踊り」で使用された浴衣を東北の伝統工芸「裂き織」で織り上げた「さんさ裂き織」等を販売。
7	山形県高畠町	山形県 高畠町	物販	「食の感性が豊かなまち」高畠から、地域を代表する名産品を販売。2013 年度の町会議の際に誕生したマスコットキャラクターも来場予定。
8	岩手アカモク生産協同組合	岩手県 宮古市	物販 展示	牡蠣の養殖イカダに自生する藻・アカモクを加工品として販売し注目を集める当日は加工品の販売に加え、アカモクそうめんの試食会を開催。
9	登米市観光物産協会	宮城県 登米市	物販	登米市名産のお菓子ほか、PRキャラクターはっぴのグッズ(缶バッジや文具など)の販売を予定。
10	特定非営利活動法人 wiz	岩手県 大船渡市	展示	岩手特化型クラウドファンディング「いしわり」のパネル展示、フライヤー配布、「風鈴ロードプロジェクト」用の見本(南部風鈴)を紹介する
11	一般社団法人 KAI OTSUCHI	岩手県 大槌町	展示 体験	津波の被害の大きかった大槌町の復興計画 3D モデリングの実演や、地域公式アプリの体験
12	アリエーヴィー(株)	宮城県 仙台市	物販 体験	仙台市の伝統工芸工房「秋保工芸の里」で制作した伝統工芸品を販売
13	(株)re:terra	岩手県 陸前高田市	物販	陸前高田に自生する気仙椿を使った化粧品づくりを手掛ける。ハンドクリームやリップクリーム、iPhone ケースや福おちよこ等を販売予定

※ 順不同。出展者および内容は当日までに変更となる場合があります

【別 紙】

事業紹介② Creative Summer Camp 2015 in TOHOKU



Creative Summer Camp は、一般社団法人 myJapan が主催する合宿型映像制作プログラムです。夏に 29 歳以下の若手クリエイターが地域を訪れ、その魅力を PR する 30 秒動画を、2 泊 3 日で制作いたします。8～9 月にかけて下記 3 地域で「撮影・編集・現地発表会」が行われ、9 月 29 日に東京・渋谷で開催する最終発表会で優秀作品を決定します。最終発表会での審査には、箭内道彦氏や高崎卓馬氏、中島信也氏など、日本のトップクリエイター総勢 6 名が参加します。制作された各地域の優秀作品は、東急電鉄の協力により渋谷スクランブル交差点の「Q'S EYE」にて放映される他、また世界最大規模のコンテンツディスカバリープラットフォーム Outbrain を通じ、世界へも配信されていきます。

福島県会津（8/21 ～ 8/23 撮影・現地発表）

城下町の文化と雪国ならではの風土、そして雪がもたらす水・米・酒を中心とした食文化がある会津地方は、400 年の長きに渡り伝統産業の「会津漆器」が栄えて来た土地です。かつて「Japan」といえば漆器のことを指すほど日本を代表してきた漆器も、産地では売上の減少に苦しんでいます。また会津は、東日本大震災の影響から観光客の減少等により厳しい状況に置かれ、地域としても新しい取り組みが必要です。そうした中、日本人の暮らしの粋が詰まった「漆器」は除々に見直され始めており、時代にあった新しいデザインへの挑戦や若手職人の育成、海外進出、他ブランドとのコラボレーションなど、様々な挑戦が続けられています。

宮城県石巻（8/28 ～ 8/30 撮影・現地発表）

宮城県の沿岸部に位置する石巻は、世界三大漁場と呼ばれる三陸・金華山沖でとれる海の幸や、広大な川の水を利用した米作り、その加工産業など贅沢すぎるほどに 美味しい“食”が溢れています。同時に、石巻は東日本大震災の津波の影響で大きく被災した地域でもあります。当時、漁港は荒廃し、田畑は流失、風評被害で観光客も減少しました。しかし、石巻はこの“食”の力を信じ続け、震災後も多くの人が挑戦を続けて徐々に活気を取り戻してきました。震災から 4 年が経った今、石巻では様々なジャンルや場所で、新しい取り組みがなされています。

山形県赤湯（9/4 ～ 9/6 撮影・現地発表）

泉質が良いと有名な赤湯温泉街には約 900 年の歴史があり、昔から武将たちを癒し続けてきました。また、周辺地でもさくらんぼやラ・フランス、ブドウ、米沢牛といった食材の生産に加え、スカイスポーツであるハンググライダーの世界大会が開催されています。しかし、東日本大震災以降観光客の足が遠のき、特に外国人旅行者はいまなお続く風評被害の影響で大幅に減少しています。そんな中、地元の人々は赤湯の温泉に自信と誇りを持ち、この困難を乗り越えるべく、地域一丸となってより魅力的な観光地を目指す挑戦を続けています。

6 月に myJapan が行った参加募集は早々に定員に達し、7 月には各地域を事前に訪れるロケハンツアーも行われています。7 月 26 日には、現地でのロケハンを基に構築した各チームのアイデアに講師の中島信也氏、河尻亨一氏がアドバイスする 1day ワークショップを東京で開催します。「新しい東北」の挑戦を、若者ならではの感性と映像表現で切り取り、地域の課題と可能性を国内外へ発信することを、本 PR 事業では目指してまいります。

【別 紙】

事業紹介③「世界にも通用する究極のお土産―「新しい東北」の挑戦―」



「世界にも通用する究極のお土産―「新しい東北」の挑戦―」は、東北の挑戦が生み出した商品と大手流通バイヤーを結びつけ、全国的な流通のネットワークに載せるきっかけを提供することで、東北のお土産に込められたストーリーを全国に伝えることを目指します。地域の特産品をいかして開発された東北のお土産や、世界にも通用するお土産を発掘するために、東北各地の魅力的なお土産を公募(平成 27 年 6 月に実施)し、東北各地の事業者から、497 件もの応募を集めました。この中から書類審査を通過した100品(予定)のお土産を、平成 27 年 9 月 14 日に開催される「究極のお土産フォーラム」品評会に出品、大手百貨店等の最終審査員10名(下記)により、究極のお土産10品を選定します。

● 究極のお土産フォーラム概要

日時： 平成 27 年 9 月 14 日(月)

内容： <第一部> シンポジウム 13:30~15:40

基調講演 13:30~14:10

「お土産の価値追求について(仮)」(大西 洋氏 株式会社三越伊勢丹ホールディングス代表取締役社長執行役員)

「ご当地グルメをヒットさせるには!」(藤崎 慎一氏 株式会社地域活性化プランニング代表取締役)

パネルディスカッション 14:10~15:40

<第二部> 究極のお土産品評会 16:00~19:00

会場： 都市センターホテル3階「コスモスホール」(〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1)

● 最終審査員の皆さま



● 一次審査員の皆さま

荒木真司((株)楽天)、木庭清美((株)地域活性化プランニング LJマルシェ)、坂西理絵((株)料理通信)、佐藤弘樹((株)東急百貨店)、柴崎誠((株)ローソン)、東海林寛之((株)三越伊勢丹)、真壁まり子((株)紀ノ國屋)、町田成一((株)プレジデント社 dancyu)、マッキー牧元((株)味の手帖)、守屋春美((株)阪急阪神百貨店)、横川正紀((株)ディーンアンドデラーカジャパン)

【別 紙】

事業紹介④「“新しい東北キッチン”プロジェクト」



「食の宝庫」と言われる東北のなかでも、在来作物といったさらに稀少価値の高い食材を食す機会やヒントを、幅広い人に提供することで、東北の生産者の取組みを知ってもらい、東北食材への関心を高めていくことを目指します。

今回、復興庁とともに本活動に取り組んでいただくクックパッド株式会社が運営する「クックパッド(<http://cookpad.com>)」は、20～30代女性を中心に月間延べ5,000万人以上が利用する日本最大の料理レシピサイトで、2014年からはクックパッド認定の料理教室事業「クックパッド料理教室」を新たに展開しています。自宅や飲食店を中心に開催する「安心・楽しい・深い」グループレッスンが揃っていることが特徴で、これまでのWEBサイトを通じたコミュニティからリアルな場でのコミュニティの形成へと、食を通じた交流の幅を拡大しています。今回は、こうしたクックパッドの活動を通じて、「食の宝庫」とされながらも、実際にはまだ触れたことがない人も多いという東北食材の「オススメの食べ方」を提案していきます。その土地の美味しさはその土地の人が一番知っているという地元ならではのレシピをクックパッドサイト内で公開するとともに、クックパッド料理教室講師ならではのアレンジを加えたレシピを提案する教室を開講します。門外不出となっている珍しい東北食材だけでなく、長年伝わってきた栽培技術を糧に、さらなる進化を遂げている生産者の取組みを紹介することで、幅広い人にとって「東北の食」がより身近な存在となるよう“食”にまつわる様々な情報を発信していきます。

「新しい東北」公式キッチン(仮)開設(8月～) ※予定

クックパッドには著名人や団体、メディアが自らレシピや情報を更新していく「公式キッチン」があり、今回「新しい東北」の公式キッチンページを8月より開設します。自然の恵みを受けて、その土地だからこそ根付いた不思議な東北食材を、その美味しさを知る東北の人たちによるレシピと合わせてご紹介していきます。近年は「伝統野菜」「ブランド野菜」として全国各地で農産物をブランド化する動きが活発ですが、実は生産者からすると『知らずに育てていた』と言います。震災を経てその稀少価値と、東北における農業の存在価値が改めて見直され、農業大国・東北の未来へ向けた新たな取組みの一環として、新たなレシピの開発だけでなく、昔ながらのレシピの整備も始まりました。こうした幅広い年代の人を楽しんでもらえる情報を、「新しい東北」公式キッチン(仮)では発信していきます。

「クックパッド料理教室×東北食材」開講(10月～) ※予定

「クックパッド料理教室」(<https://cookstep.cookpad.com/>)は、一般的な家庭料理や各国料理、お菓子、パンといったバラエティ豊かなジャンルにおいて、多くのレシピをみてきたクックパッドが認定した先生達が、自宅や飲食店を中心に得意な分野を教えるため、「安心・楽しい・深い」グループレッスンが揃っていることが特徴です。そこで、今回は東北食材をテーマに、各ジャンルで開発したレシピを提供する料理教室を複数箇所にて開講します。時には、東北の生産者の方が参加し、東北食材の面白さを語りながら新たなレシピと一緒に食し、生活者と生産者のリアルな接点を創出していくことも予定しています。「一回で終わらないのが食を通じた交流の特徴」という東北の生産者の言葉もあり、料理教室をきっかけに息の長い「お付き合い」を育んでいかれることを目的としています。